

要望書

物流対策の推進について

国道3号 宇城～八代間の機能強化



八代市岡町谷川付近の渋滞状況

令和6年11月

熊本県八代市

国道3号の様々な整備推進につきましては、衷心より厚く御礼申し上げます。

九州を南北に縦断する本線は、本市において、九州縦貫自動車道八代IC、南九州西回り自動車道八代南ICや日奈久ICと接続し、また、九州新幹線新八代駅もほぼ直結することから、県南地域の生活及び経済活動になくてはならない道路です。しかしながら、八代ICから以北の宇城市までは2車線のため、交通混雑により定時性が担保されない課題が生じています。また、平成28年の熊本地震では、市街地東側の山裾を縦断する九州縦貫自動車道と市街地西側の八代海沿いを縦断する県道が被災し、全面通行止めになったことから、本線は大渋滞し災害支援や復旧活動をはじめ、日常生活にも大きな支障が生じました。

本市では、‘くまもと県南フードバレー構想’や‘フードバレーやつしろ’の中で、豊富な農林水産物の首都圏等への販路拡大や拠点づくりに取り組むとともに、地域経済を支える県下最大の貿易港である八代港の利用拡大に取り組んでおり、近年ではアジアへの貿易拡大等によるコンテナ貨物、木材などの取扱量が増加していることに加え、県内で唯一台湾との国際コンテナ定期航路を有することから、TSMCの本県進出による半導体関連の原材料輸入等も徐々に増加しているところです。さらに、平成29年に国際旅客船拠点形成港湾の指定を受け、令和2年3月には、クルーズ客船専用岸壁、クルーズ旅客ターミナル「くまモンポート八代」等が完成し、令和5年春から海外クルーズ船の寄港も再開され、インバウンド効果が大きいに期待されています。これらの物流・人流のほとんどが本線を利用するものです。

さて、ここ数年は全国各地で、豪雨や台風、地震などの天災が頻発し、本市においても令和2年7月豪雨災害に続き、令和4年9月にも台風第14号により甚大な被害が生じております。本市には本線や九州縦貫自動車道直下付近に日奈久断層帯が存しており、今後、熊本地震並みの地震発生が懸念され、災害時の多重性・代替性のある広域的な道路の確保が急務となっております。

このようなことから、本市には、平常時も災害時も問わない安定的な物流・人流を確保するための広域道路ネットワークが必要不可欠です。

つきましては、宇城～八代間の機能強化に向け、一層のご配慮を賜りますようお願いいたします。

令和6年11月

八代市長 中村博生